

株主のみなさまと東芝をつなぐ情報誌

株主通信

2014年 春号

本株主通信では、ヘルスケア事業戦略やインドでの社会インフラ事業の展開など、直近のトピックスを中心に報告いたします。

剰余金の配当(期末)を1株につき4円に決定

過去最高の営業損益を達成した2013年度第3四半期累計期間(4-12月)の決算や、直近の業績動向、財務体質を踏まえて、剰余金の配当(期末)を1株につき4円と決定いたしました。

ヘルスケア事業戦略を発表

社長就任後、経営の第3の柱とすべく強化を進めているヘルスケア事業について、その戦略の詳細を発表いたしました。当社のヘルスケア事業は「みんなが健康でいきいき生活できる社会」をめざして、(1)画像診断システムや重粒子線がん治療システムなどにより、病気を早期に発見し、身体への負担の少ない治療をめざす「診断・治療」、(2)東北大学等との連携による遺伝的因子解明などを通じて病気の発症リスクを軽減する「予防」、(3)音声認識や情報通信技術を活用したサービス等により、病気やけがの治癒後に安心して生活ができるよう支援する「予後・介護」、(4)食、水、空気などの生活環境を整備する「健康増進」の4分野に注力いたします。当社グループは、すでに画像診断システムを中心に、135ヵ国以上で事業を展開し、特にCTスキャナシステムでは世界シェアトップをめざしておりますが、今後は画像診断システム全体で世界シェアトップ3入りをめざします。また、電子デバイスや社会インフラ、ライフスタイルの各分野で開発した東芝ならではの技術資産を活用するニュー・コンセプト・イノベーションを加速させ、ヘルスケア事業

株主のみなさまへ

株主のみなさまには、日ごろから多大なご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

本株主通信は

2013年12月末時点での株主のみなさまにお送りいたしますことをご了承ください。

全体で2015年度売上高6,000億円をめざします。

インドで社会インフラ事業の展開について発表

また、インド・ニューデリーにて、「エネルギーをつくる、おくる、ためる、スマートにつかう」というコンセプトのもと、同国における社会インフラ事業の強化策を説明いたしました。現地有力企業との協力関係強化も念頭に5年間(2013-2017年度)で約500億円規模の投資を行い、人員や設備増強、現地製造、販売、輸出を推進し、2017年度に売上高3,000億円をめざします。

東芝未来科学館を開設

1月、川崎に東芝未来科学館がオープンしました。産業遺産の保存・展示施設として、また当社ブランドの発信拠点および地域社会との文化交流拠点として、過去、現在、未来にわたり人々の周りにおける科学、技術をわかりやすく展示しています。みなさま、ぜひお立ち寄りください。

当社は、経営方針で掲げた「創造的成長」の実現に全力を尽くし、さらなる業績向上をめざしてまいります。引き続きご支援賜りますようお願いいたします。

2014年4月



代表執行役社長

田中久雄

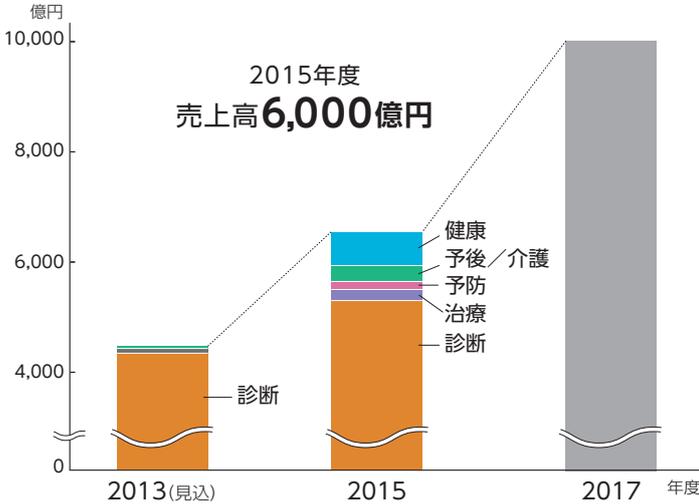
第3の柱に育てることを経営方針で掲げたヘルスケア事業戦略

本年2月、ヘルスケア事業を新たな柱に育てるための戦略を発表しました。以下はその概要です。詳細については、当社の投資家情報サイトで資料全体を掲載しておりますので、ぜひ、ご覧ください。

東芝ホームページの投資家情報 ⇒ IRイベント ⇒ 経営方針・事業説明会



ヘルスケア事業の売上高目標



グローバルヘルスケア市場と東芝の主要領域*

*市場規模は当社推定値、2012年



東芝が注力するヘルスケア事業の4分野

グループ内の異なる事業分野の広範囲な技術資産を活用し、融合と相乗効果の発揮により新たな価値を創造するニュー・コンセプト・イノベーションを加速して東芝ならではの製品やサービスを提供していきます

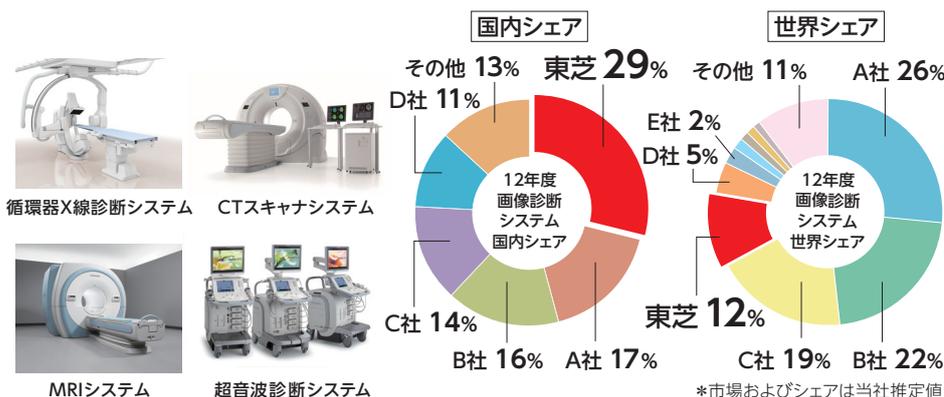


各分野におけるニュー・コンセプト・イノベーションの例

- 診断・治療**
 - 医療用裸眼3Dディスプレイ (製品化済) エリアディテクターCTの画像を裸眼で立体視できる高精密画像処理技術を応用
 - 人間の呼気(吐く息)に含まれる微量ガス濃度を測定、分析するセンサー (開発中) 産業向けに培ったガス検出、半導体技術などを応用
- 予防**
 - 「さりげないセンシング」を実現する生体センサー (製品化済) 半導体技術、センシング技術、情報解析技術を応用
- 予後・介護**
 - 音声つぶやきSNS (ソーシャル・ネットワーキング・サービス) (実証実験中) 音声認識・文字化技術やデータ解析技術などを応用
- 健康増進**
 - 消臭、抗菌、抗ウイルス機能を発揮する光触媒 (製品化済) 光触媒粒子の性能向上技術、金属材料技術などを応用

東芝が強みを持つ診断・治療分野のさらなる強化

■ 画像診断システム 世界のトップ3入りを目標 (2017年度)



■ 重粒子線がん治療システム

高精度な位置決めと高速3次元スキャン技術で身体への負担が少なく、短時間で治療が可能な装置を提供

2013年度
 設置: 1 (放射線医学総合研究所)
 受注: 1 (神奈川県立がんセンター)
 計画中: 4 (国内2、海外2)

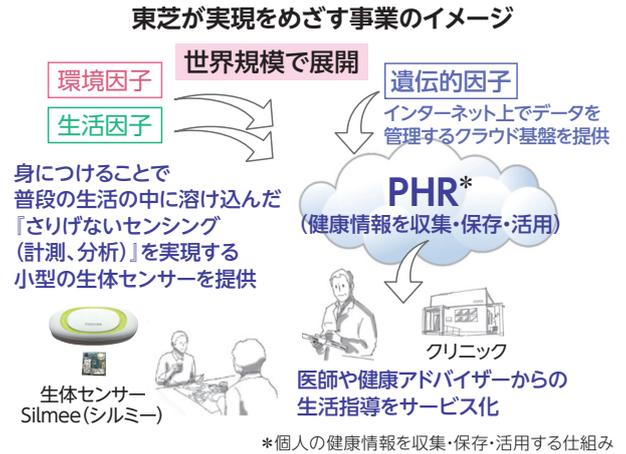
2016年度
 海外: 各国プロジェクトの推進
 国内: 積極的な受注活動を展開



東芝の広範囲な技術資産を活用し、新規で立ちあげていく事業例

■ 予防 病気の発症リスクを軽減

- 病気に関係する環境因子、生活因子、遺伝的因子を知り、個人の将来の健康状態を予測してライフスタイルの変革につなげることで、病気発症リスクの軽減に貢献
- 文部科学省・JST (科学技術振興機構) によるイノベーション創出施策のひとつである「革新的イノベーション創出プログラム (COI STREAM)」に東北大学、日本光電工業 (株) 他と共に参画するなど、当社のビッグデータ解析技術を活用して、予防支援事業を推進



■ 予後・介護 安心して生活ができるサービス

音声つづやきSNS*で在宅・医療介護の情報共有を可能にし、連携を支援
*ソーシャル・ネットワーキング・サービス:人と人とのつながりを支援するコミュニティ型のウェブサイト

2013年度実証実験中
2014年度実用化
2016年度
在宅や介護施設・病院で患者様のつづやきや会話などの音声データの文字化、記録化を情報通信技術で支援



施設内音声コミュニケーション&記録システム

■ 健康増進 いきいきとした生活、心とからだの健康 植物工場 安全・安心な新鮮野菜で世界中が健康的な生活へ

無菌・無農薬の安全・安心野菜の提供
⇒食習慣からつくるソーシャルヘルスケア



2013年度開発中
2014年度実用化
植物工場ソリューション提供へ

インドにおける社会インフラ事業の展開

2月、インド・ニューデリーにて、高い経済成長が期待されている同国の社会インフラ事業を加速する方針、施策について発表し、協力企業が参加する技術セミナーも実施いたしました。「エネルギーをつくる、おくる、ためる、スマートにつかう」を実現するインフラ構築に向けて、火力・水力発電を中心とする電力システム事業、送変電配電事業のほか、エレベータをはじめとするビルソリューション事業などに注力しています。現地の有力企業との協力関係を強化させながら、長年培った技術、納入実績を基盤として事業を発展させます。



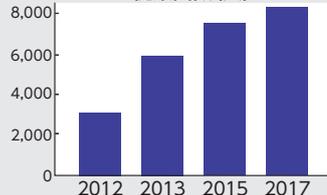
インドの有力企業との協力関係強化

インドにおける事業計画

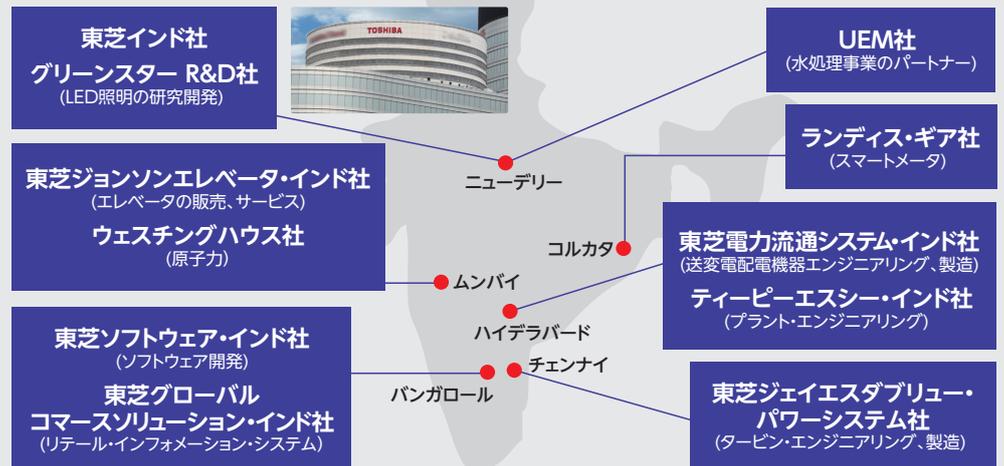
投資計画 (2013-2017年度):
5億米ドル (約500億円)
売上高 (百万米ドル)



従業員数 (人)



東芝グループのインド拠点



2013年度第3四半期(4-12月) 連結決算概要

第3四半期累計期間連結業績 (単位:億円)

	2012年度	2013年度
売上高	40,430	45,888
営業損益	983	1,533
税引前損益	910	910
当期純損益	545	387
為替換算レート (円/ドル)	80	99
(実績) (円/ユーロ)	102	131

2012年7月に買収した米国IBM社のリテール・ストア・ソリューション事業に関する取得金額の資産および負債への配分完了に伴い、2012年度の数値を一部遡及的に組み替えて表示しています。

ポイント

売上高 主要5セグメントの全てにおいて 対前年同期で増収を達成

- メモリが引き続き好調に推移したことにより、電子デバイス部門が大幅増収。
- 太陽光発電などの社会システム事業が好調だった電力・社会インフラ部門や、エレベータや東芝テックが好調だったコミュニティ・ソリューション部門も増収となり、ヘルスケア部門やライフスタイル部門も増収。

損益 営業損益は対前年同期550億円の増益で、 過去最高を達成

- 電子デバイス部門が第3四半期においても上期を超える利益率を維持し、9ヶ月累計での過去最高を達成。コミュニティ・ソリューション部門、ヘルスケア部門も増益。
- 電力・社会インフラ部門は、火力発電システムの復興需要減、海外の原子力発電システムの悪化により対前年同期で減益。
- ライフスタイル部門では、液晶テレビと家庭電器が第3四半期に黒字化を達成、パソコンは現在進めている構造改革の一環として在庫処理費用を計上。部門全体としては、第3四半期は第2四半期から大幅改善。

ライフスタイル部門の業績改善

売上高	13年度 (単位:億円)		
	12年度 1-3Q	13年度 1-3Q	差 対12年度
テレビ	2,032	1,822	-210
パソコン	5,213	5,344	131
家庭電器	1,579	1,823	244
営業損益	12年度 1-3Q	13年度 1-3Q	差 対12年度
ライフスタイル計	-289	-414	-125
13年度 四半期別営業損益推移			
	1Q	2Q	3Q
	-257	-110	-47

13年度業績予想

2013年10月30日に発表した業績予想を変更しておりません。
(単位:億円)

摘要	13年度 業績予想 (10/30公表)
売上高	63,000
営業損益	2,900
税引前損益	2,000
当期純損益	1,000

※本株主通信では、「税引前四半期純損益」を「税引前損益」として「当社株主に帰属する四半期純損益」を「当期純損益」として表示しています。

株式会社 東芝

〒105-8001 東京都港区芝浦一丁目1番1号 TEL (03) 3457-4511 (代表)

株式事務についてのご案内

株主名簿 管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
連絡先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 東芝専用ダイヤル ☎0120-78-6502

ご意見・資料請求は株式会社東芝 広報・IR室あてにお送りください。
投資家情報サイト
<http://www.toshiba.co.jp/about/ir/>

本株主通信に記載されている事項には、将来についての計画や予想に関する記述が含まれています。実際の業績は当社の予想と異なることがありますことをご承知おきください。

トピックス

東芝未来科学館がオープン

1月31日、川崎ラゾーナ地区に東芝未来科学館をオープンしました。1961年から昨年9月まで開館していました東芝科学館をリニューアルしたもので、JR川崎駅西口のスマートコミュニティセンター内2階にあります。入館料は無料です。詳細は、東芝未来科学館のサイトに掲載しておりますので、ぜひ、ご覧ください。(東芝ホームページ内)

住所: 〒212-8585

神奈川県川崎市幸区堀川町72番地34

スマートコミュニティセンター

(ラゾーナ川崎東芝ビル)2階

電話: 044-549-2200

開館時間: 火~金曜日 10:00~18:00

土・日・祝 10:00~19:00

休館日: 月曜日(祝日を除く)、当館の定める日

入場料: 無料

専用駐車場はございません。公共交通機関でお越しください。

電子デバイス SSD*事業の強化

米国OCZテクノロジー社のSSD*事業に関する 資産譲渡取引を完了

当社は、米国OCZテクノロジー社(以下、OCZ社)と昨年12月に締結した同社のSSD*事業に関する資産譲渡契約に基づき、その資産取引を1月に完了しました。OCZ社のSSD*事業に関する技術開発資産、知的財産、製品、販売網を取得し、当社が強みを持つNAND型フラッシュメモリの技術と、当社が高い実績を持つパソコン向けやデータセンター用途SSD*を組み合わせることで、SSD*事業の競争力を一層強化していきます。当社は、今後も顧客ニーズにこたえるストレージ製品を積極的に展開していきます。

*SSD:ソリッドステートドライブ

電力・社会インフラ AP1000™建設に向け出資

英国での加圧水型原子炉「AP1000™」 3基の建設のための出資

当社は、英国西カンブリア地方で原子力発電所新規建設を計画している原子力発電事業開発会社・ニュージェネレーション社の株式について、現株主であるスペインの電力会社イベルドロラ社、およびフランスの電力会社GDFスエズ社から、合わせて60%を取得します。取得額は総額で約1億ポンド(約170億円、170円/ポンド換算)で、今後、両社との詳細事項の調整、行政許可などの諸手続きを経て、株式取得手続きを完了する計画です。この株式取得によりグループ会社ウェスチングハウス社の加圧水型原子炉AP1000™3基の建設機会を確保します。